

# 平成 30 年度活動報告書

特定非営利活動法人こうのとりゆりかご in 関西

## I 各事業の概要

### (1) 電話、メール相談および面談事業（妊娠 SOS 相談窓口の運営）

#### 1. 電話相談事業

前年度の 2 月 15 日より、元町拠点（兵庫県神戸市）と芦屋拠点（兵庫県芦屋市。5 月末まで）での電話相談が始まっている。今年度は、6 月 1 日から、高槻拠点（大阪府高槻市）が開設され、現在、2 拠点での活動となっている（平日：午前 10 時～午後 4 時、土曜：午後 5 時～9 時、日祝休み）。電話相談員が当番制を敷き、原則 2 名以上の拠点待機制で、電話相談対応をしている。

3 月 31 日までの相談件数は、2 月：6 件（新規 5 人）、3 月：4 件（新規 3 人）、4 月：2 件（新規 1 人）、5 月：0 件（新規 0 人）、6 月：6 件（新規 1 人）、7 月：10 件（新規 3 人）、8 月：5 件（新規 0 人）、9 月 2 件（新規 0 人）、10 月 4 件（新規 2 人）、11 月 1 件（新規 0 人）、12 月 5 件（新規 0 人）、1 月 1 件（新規 1 人）、2 月 5 件（新規 5 人）、3 月 10 件（新規 7 人）計 61 件（新規 28 人）である。今年度のみでは、計 51 件（新規 20 人）となる。

相談内容としては、「経済的不安」「強い性暴力」「誰の子かわからない」「性的虐待」「妊娠不安」「妊娠と健康不安（喫煙・アルコール・うつ）」「出産後住むところがない」「男性の態度があいまい」「不倫と妊娠」「若年（中高生）の妊娠」「中絶に関して」「男性からの相談」「家族の理解がない」「中絶を迫られている」など、多岐にわたっている。

開設当時のマスコミ報道により、当初は話題を集めたが、認知度の広まりに勢いを欠き、当初の目当てからは大きく下回る相談件数にはなっている。その分、当番で拠点入りした相談員は、非公式にロールプレイを実施したり、関係書籍を研究したりするなどして、いつ何時電話がかかって来てもよいように待機していた。その電話相談も今年に入って、インターネット広告（Google 広告）の影響もあってか相談件数が徐々に増加してきている。15 歳～20 歳の中高生の相談が目立つ傾向がみられるが、当初考案した流れにそった相談が広がっていくものとの予想している。

この間、電話相談員（助産師、看護師、ソーシャルワーカーほか対人援助経験者）の専門的知識や知見以外の別の意味での専門的な相談も散見している。また、熊本の慈恵病院の相談事例統計から、相談時間帯が午前 9 時から 24 時までの時間帯に集中していることから、当初計画していた単一専門職（助産師）による 24 時間の電話相談を実施するのではなく、相談者の課題解決手段に必要な外部専門家との業務委託関係を広げ、かつ電話相談員の強化増員により対応時間帯の拡大をめざす取り組みを模索してきた。

現在、具体的な専門家として、小児科医、精神科医、心理士・家裁調停委員、弁護士、臨床心理士との業務委託契約を交わしており、このほか、対人援助経験者（教育・介護）・望まない妊娠問題に長年関わってきた精通者とも業務委託契約を交わして、それらの経験を活かしている。今後は、助産師、保健師、ソー

シャルワーカーらとの連携を深める予定にしている。

また、電話相談員の強化増員方針により、当初は23名からのスタートであったが、その後の退会や直接電話対応に携わらない協力員への移動による減員や、今年度新たに「相談員養成講座」を修了した人を加えて、3月31日現在の電話相談員は25名となった。引き続き、30名を目標に募集を続けていく。

電話相談拠点も、3・4番目の拠点として、大阪拠点（大阪市西区）と芦屋拠点（兵庫県芦屋市）の開設が決定している。電話相談システムとして、現在10台の携帯電話を稼働させているが、新年度は5か所の拠点とし、続いて、メール・LINE相談体制の構築に取りかかっていく。

まる5っ お 産 を 爆 爆 おん の 子  
050-3033-0705

## 2. 電話相談員養成講座事業

電話相談員希望者10名に対して、当初、個々のスケジュール合わせ各拠点（元町、高槻）でのビデオ研修（前年度に実施した養成講座を各5回実施した。第1回：妊婦の心とからだ・妊娠の経過と緊急対応につなげる主な症状、第2回：電話相談の理論と実践・カウンセリングの理念、第3回：思いがけない妊娠の対応・赤ちゃんの幸せのために・社会的養護の概論・悩める妊婦が活用できる社会資源と窓口、第4回：事例を通して学ぶ相談対応・理論&調査力&聴く力～保健師ジャーナルを読み解く、第5回：電話相談の理論と実践・相談力を高めるために）。

第6回・第7回目は、「相談対応の実践」ロールプレイ研修を、1月31日と3月7日に実施し、新たに2名の養成講座修了者を加えた（相談員の都合により、残り1回ないし2回の講座を残した人に対しては、5月に補講を行い修了認定した）。

悩む妊婦の“こころ”に寄り添い、胎児を“ひと”としてサポートする、を念頭に、相談員一人ひとりの働きかけによって、相談者が妊娠を受け止める力を引き出し、電話相談員全員で、日々連携して相談者の「おなかの赤ちゃん」について考えていこうという、「in 関西」の相談員としての理念自覚のスタートの場としている。

また、終了者にはIDカードを発行し、意識向上に資すると共にポスターやカードなどの設置依頼に際しての身分証明として活用している。



**身分証**

相談員番号 010  
承認年度 1-2017



こうのとり・にんしんSOS相談員  
氏名 **目瀬 真理子**  
Mese Mariko  
特定非営利活動法人  
こうのとりゆりかご in 関西

〒562-0023 大阪府箕面市東生間谷西 6-15-2 医療法人ガラシア会内  
TEL 072-737-5226 <https://kounotori-inkansai.jimdo.com>

TEL 013-131-2739 [info@kounotori-inkansai.jimdo.com](mailto:info@kounotori-inkansai.jimdo.com)  
FAX 013-131-2738 [info@kounotori-inkansai.jimdo.com](mailto:info@kounotori-inkansai.jimdo.com)

### 3. 現行相談員スキルアップ事業

まず、4月5日、12日両日には、2月15日からスタートして10件ほど寄せられた電話相談の実際の事例の中から、「相談対応の実践」研修を実施し、かつ、相談シートの記載方法、再・反復相談に対応した、電話相談システム利用の実践方法などを広く共有した。

また、6月10日、虚子記念文学館（芦屋市）にて以下を開催し、法人の現状とその方向性の解説に加え、世界の状況に関する知見の理解と日本の課題などを確認した。さらに、電話相談の現状と今後の方向性などを学んだ。（この会には、電話相談員養成講座受講者も参加した）

演 者：理事長 人見滋樹、副理事長 小林和、理事 荘司康嗣

- ① 「in 関西」の現状と淀川キリスト教病院との連携、世界の状況
- ② 「Baby Box」国際シンポジウム in 熊本の報告から、各国の現状と課題
- ③ 「このとりのゆりかご in 関西」電話相談の現状と今後の課題



8月26日、兵庫県西宮市にて、「電話相談員研修会」を開催した。

当日は、理事長より、電話相談員が身につけるべき参考図書の紹介や、活動計画の一部変更についての説明とその認知の徹底。副理事長より、6月以降の電話相談活動における事例研究として、ホットケース（相当に深刻な相談の場合）・継続ケース（何度も繰り返しかかってくる相談の場合）についての情報共有認知とその方法の説明、新たに設置する「面談グループ」と「中継グループ」についての説明などを行った。また、電話相談員のチーフから、「調停技法」より、電話相談や面談の際の留意事項をそれぞれ10項目、3項目の説明があった。「in 関西」としての電話相談はいかにあるべきか、を一人ひとりが心に刻んだものとなった。

10月14日、大阪市西区にて、「電話相談員研修会」を開催した。

- ① ロールプレイの実際を、2名の相談員が担当。
- ② 臨床経験（主に看護師）をもつ4人の相談員より、養子縁組・児童虐待や中絶の現場体験報告。



③ 社会福祉法人神戸少年の町乳児院施設長の宮本由紀氏より、「被虐待児童の、現場からの報告」。

④ ユーチューブより『沈黙の叫び』を視聴。

以上を受けて、感想発表および意見交換を行った。



沈黙の叫び



10月21日（当初9月30日開催の予定であったが、台風24号接近により、この日に延期した）。カトリック夙川教会・聖堂（兵庫県西宮市）にて、以下の内容で講演会およびシンポジウムを開催し、相談員も、望まない妊娠で悩む妊婦さん、お腹の赤ちゃんを様々な観点から応援できるようになる知見と視野を広げるべく、その多くが参加した。

テーマは、「こうのとりのゆりかごに法整備を！ 日本と、米国・欧州との“格差”をなくそう」。

基調講演として、『「こうのとりのゆりかご」とともに ～開設から11年が経過して～』を、前熊本市長の幸山政史氏に、また、「米国での“ゆりかご”の実践 ～赤ちゃん安全保護法～」を、朝日新聞編集員の大久保真紀氏に依頼した。

シンポジウムは、上記のテーマで、講演者の幸山政史氏、大久保真紀氏に加え、慈恵病院理事長で、当会顧問の蓮田太二氏、当理事長の人見滋樹の4人で行われた（司会は副理事長の小林和）。会場参加者との間では、中絶の是非についての意見交換も展開された。

このシンポジウムには、127名が参加し、その模様は、地元関西テレビニュースにも取り上げられた。会場には、当会の電話相談員を新たに希望する人も5名参加していた。

**資料：事業成果物参照**

10月21日シンポジウムの様子



1月31日、3月7日の「相談対応の実践」ロールプレイ研修には、すでに養成講座の受講が修了している相談員も複数名参加した。（会場はいずれも元町拠点）

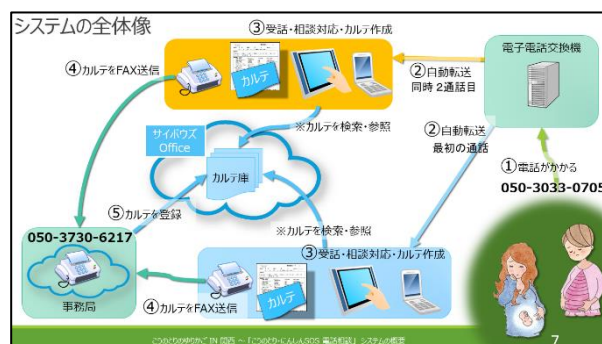
副理事長、相談員チーフのリードの元、当会の電話相談員としての自覚と心得や、日本の妊婦や胎児をとりまく法的現状、子どもの権利条約を踏まえた上で、書籍や、当会の電話相談の具体的事例をもとに、ロールプレイを実施した。

3月24日、スペースアルファ三宮・会議室（兵庫県神戸市）にて、萬屋育子氏（認定 NPO 法人 CAPNA〈子どもの虐待防止ネットワーク・あいち〉理事長）を迎え、テーマ「生みの親から育ての親への橋渡し～赤ちゃん縁組（㊤新生児からの特別別養子縁組）の取り組み」と題して、講演会を行った。当日は、実際に特別養子縁組で育った尼崎市職員もゲストで参加した。**資料：事業成果物参照**



この他、相談員各人のスキルアップのため、自主的に各種外部研修会（児童虐待・DV・養子縁組など）への参加を実施した。また、前述のように、個々の事例に関する研究や意見・情報交換、一丸となった相談態勢をどう構築していくかの意見交換、業務向上のための規約策定・電話相談システム改善などの実施を行った。

**インバウンド型バーチャルコールセンター改修**  
同時着信対応や通話継続中の外部専門家への相談対応などにかかるシステムの改修を実施。



#### 4. このとりのゆりかご面談事業

7月1日より、電話相談員の元町拠点（兵庫県神戸市）と高槻拠点（大阪府高槻市）、さらには箕面拠点（大阪府箕面市）において、相談時間帯（平日：午前10時～午後4時、土曜：午後5時～9時、日祝休み）における面談を行い、必要に応じて「このとりのゆりかご連携病院」（大阪市の病院は10月から協力体制を、大阪府高槻市の病院は同じく10月から当面相談病院として）による、医療社会福祉士（MSW）を先方の窓口とした電話相談を通じての、外来診療、分娩申込み、入院、出産などへの対応

ができるよう体制づくりを模索した。今年度は、10月に2件の相談事例があった。

臨床経験を持つ電話相談員の中から、現時点で6名（看護師4名・助産師・家裁調停委員各1名）を指名し、緊急性がある場合、相談の内容や問題点を明らかにするために相談者と直接面談をする「面談グループ」を形成している。電話相談員も含めて「面談型相談のフローチャート」を共有し、日々研鑽に努めている。なお、3月31日までに、面談に至ったケースは1件であった。

## 5. 広告宣伝事業

「このとり・にんしん SOS 電話相談」告知のための印刷物を作成し、関西圏各所に依頼を実施しながら配布、設置を進めた。また、講演会・研修会ごとに印刷物をセットして封筒に入れ、参加者に個別配布した。さらに、外部の協力病院ほかの訪問時にも、同様の対応をして広報に努めた。

**資料：事業成果物参照**



12月より、「このとり・にんしん SOS」のネット広告がスタートした。

当会は、インターネットで一番使われている検索エンジン「Google」より、“Google for Nonprofits”に認定され、Google 広告（Ad Grants）費用を、年間 \$ 120,000（ドル建て）まで無償提供で受けることが可能になった。パソコンやスマートフォンで、妊娠相談に関する様々なキーワードを Google で検索した際、「このとり・にんしん SOS」に関する広告が表示されるが、これをクリックするたびに、広告の品質や露出度が上がり、より多くの人に広報ができるようになる。実際に、2月以降、特に3月全体で3日に1件のペースに相談件数が上がってきている。ネット上での当法人の認知度が上がってきているように思われる。





ホームページ上に、当法人の活動の様子や、関係団体との連携などについて、不定期に更新し、最新の情報提供に努めた。特に、懸案であった「こうのとりのゆりかご・にんしん SOS」相談窓口ページを、アクセスの向上をめざし、法人とは別のドメインで（yurikago.work）新規公開した。

#### **資料：事業成果物参照**

当初の目的にもあるが、熊本の慈恵病院への相談分から、関西方面の相談を受け持ちたいとの思いが出発点にある。慈恵病院のホームページにリンクを貼るという広報も検討されたが、いきなり数多くの相談が寄せられかねないことが予想され、本年度は、当法人の歩みに合わせ、さらに技量を磨いた上で、改めて検討することとした。



## **（２）こうのとりのゆりかご連携施設、こうのとりのゆりかご設置施設の開設及び支援事業**

大阪市の病院との連携については、理事長（現相談役・当法人顧問）、病院長（当法人理事）と、人見理事長との対話により、連携施設設立の可能性についての意見交換がなされてきた。

その間、大きな総合病院では、こうのとりのゆりかごを設置しての運営は現実的に難しいということが確認され、その上で、4月13日、人見理事長らが病院を訪問した際に、当方電話相談員の相談には病院として応じていただける方向性が示された。

その後、覚書案や業務委託契約案などが検討されたが、8月22日、まずは、「当方電話相談員が受ける数々の悩める相談のうち、医学的なことに関して、病院のMSW（メディカルソーシャルワーカー）に尋ねるべき事例が発生した場合、業務時間内に電話をするところから始める」という緩やかな覚書を交わし、現場同士の関係を構築していくところから始めることになった。

さらにその後、大阪府の「未受診妊婦受入施設」一覧から、受入実績の積極的な病院を順次訪ね、表題の目的達成に向け努力していくこととし、その皮切りとして、9月6日、大阪府高槻市の病院を、人見理事長らが訪問し、当法人の主旨や活動概要を説明するとともに、今後連携施設としての関係づくりを構築していきたい旨伝えた。しかし、具体的な取り決めは将来のこととし、まずは当方相談員から、SW（ソーシャルワーカー）に尋ねるべき事例が発生した際、業務時間内に電話することから始めることが確認された。上述のとおり、今年度は10月に各病院1件ずつの相談事例が発生した。

## **（３）養子縁組支援事業**

電話相談が徐々に増えていくその先には、養子縁組を希望する妊婦・母子の対応を求められることが必定である。こうした里親・養子縁組について学んでいく有効な手立てとしては、第二種社会福祉事業の届出があ

り、実績のある民間の養子縁組あっせん団体、及び行政などとの連携を行っていくことが欠かせない。今年度は、まず相談員による養子縁組についての知見の向上、支援の方法や手段の研究など、各団体とともに学び合える関係づくりを具体的に構築するところから始めた。

●6月10日、一般社団法人（埼玉県川越市）代表理事と、理事長・副理事長らが面談し情報交換を実施。

●7月26日、公益社団法人（神戸市）事務局長、理事長・副理事長らが面談し情報交換を実施。

●8月26日、特定非営利活動法人（茨城県）代表と、副理事長が連絡、今後の連携等意見交換。

●12月13日、相談員2名が、直接、公益社団法人を訪ね、その里親制度の概要についてレクチャーを受けた（次年度は、予算化し、里親資格を取得すべく、研修を希望する相談員が講習受講する予定である）。

●3月24日、前述のように、スペースアルファ三宮・会議室（兵庫県神戸市）にて、萬屋育子氏（認定NPO法人CAPNA〈子どもの虐待防止ネットワーク・あいち〉理事長）を迎え、テーマ「生みの親から育ての親への橋渡し～赤ちゃん縁組（㊟新生児からの特別別養子縁組）の取り組み」と題して講演会を行い、養子縁組の実態について学んだ。当日は、実際に特別養子縁組で育った尼崎市職員もゲストで参加しており、当事者の発言から多くを学んだ。**資料：事業成果物参照**

#### （４）お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員であることを啓発するための講演会、セミナーの開催

●4月25日 大阪輝き塾にて「どんないのちも輝いている」というテーマで、理事長が講演。

会場：中央電気倶楽部

報告要旨：「in 関西」の法人化以降の事業開始までの経緯について、行政へのアプローチから、面談型こうのとりゆりかごの助産院（神戸市）への設置計画とその断念など、こうのとり・にんしんSOS電話相談事業の開始、今後の取り組みへの道筋などを報告した。



●7月8日 下鴨アカデミー（京都市）で講演会を開催。

「赤ちゃんの権利擁護と弁護士の仕事」というテーマで、吉岡 良太郎理事による講演を行った。

主催：公益財団法人教育振興会



●10月21日 シンポジウム「こうのとりゆりかごに法整備を！～日本と、米国・欧州との“格差”をなくそう」（前述） **資料：事業成果物参照**



●1月12日 小林和副理事長が、さくらFM（兵庫県西宮・芦屋ローカル放送）の「な・ば・なネットワーク」に出演し、「こうのとりのゆりかご in 関西の活動について」というテーマでインタビューを受けた。「in 関西」の活動の経緯、理念、実際の動きから、諸外国の事情まで幅広く情報提供した。**資料：事業成果物参照**

●2月3日 日本カトリック医師会 東京支部主催 講演会「母子の命を救いたい！『こうのとりのゆりかご』の挑戦～九州から関西へ、そして全国へ」（東京都千代田区）において、人見理事長が基調講演「『NPO 法人こうのとりのゆりかご』と病院の産婦人科との共同作業による未受診出産の撲滅作戦」を行った。この会には、小林副理事長もパネル討論会の司会として参加し、世界の赤ちゃんポストの歩みについて、年表を使用して説明を行った。

この会には、「in 関西」が後援団体として関わり、参加者より多数、今後の取組みについての情報提供を求められた。

●3月24日 講演会「生みの親から育ての親への橋渡し～赤ちゃん縁組（㊤新生児からの特別別養子縁組）の取り組み」（前述）**資料：事業成果物参照**

## **（5）青少年への生命尊重教育事業**

今年度は実施していない。

## (資料) 事業成果物

事業成果物として以下をサイトに保存公開している。



概要	更新日時
事業成果物名 <b>2018 年度 赤ちゃん縁組の取り組み 講演録</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22238">https://fields.canpan.info/report/detail/22238</a> 事業成果物種類 <b>講演録</b>	2019 年 4 月 8 日 12:57 更新
事業成果物名 <b>2018 年度 こうのとり・にんしん S O S 告知のためのラジオ放送</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22059">https://fields.canpan.info/report/detail/22059</a> 事業成果物種類 <b>講演録</b>	2019 年 4 月 1 日 15:44 更新
事業成果物名 <b>2018 年度 シンポジウム</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22068">https://fields.canpan.info/report/detail/22068</a> 事業成果物種類 <b>講演録</b>	2019 年 3 月 27 日 17:06 更新
事業成果物名 <b>2018 年度 こうのとり・にんしん S O S 認知用ポスター</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22057">https://fields.canpan.info/report/detail/22057</a> 事業成果物種類 <b>ポスター</b>	2019 年 3 月 27 日 10:46 更新
事業成果物名 <b>2018 年度 こうのとり・にんしん S O S 認知用名刺サイズカード</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22058">https://fields.canpan.info/report/detail/22058</a> 事業成果物種類 <b>チラシ</b>	2019 年 3 月 27 日 10:46 更新
事業成果物名 <b>2018 年度 事業用パンフレット</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22055">https://fields.canpan.info/report/detail/22055</a> 事業成果物種類 <b>パンフレット</b>	2019 年 3 月 27 日 10:45 更新
事業成果物名 <b>2018 年度 こうのとり・にんしん S O S 相談拠点ホームページ</b> <a href="https://fields.canpan.info/report/detail/22056">https://fields.canpan.info/report/detail/22056</a> 事業成果物種類 <b>ウェブサイト</b>	2019 年 3 月 27 日 10:44 更新